

(資料)

GFで臨界面を超えた瞬間、装置が属する空間座標が更新されるとはどういうことか？

これは、GF理論のいちばん誤解されやすい核なので、比喩→数理→物理量の順で解説します。
まず一言で

「装置が動いた」のではなく、

「その装置が“どの空間パッチに属しているか”という割り当てが切り替わった」

——これが装置が属する空間座標が更新されるの正体です。

① 日常的なたとえ（いちばん近い感覚）

エレベーターではなく「床番号の再割り当て」

普通の運動：・自分が1階→2階へ移動

GF的現象：・自分は同じ場所に立っている

・しかし「この場所＝1階」というラベルが2階に切り替わる

☒ 外から見ると「突然2階に現れた」ように見える。

② 空間を“連続なもの”と思っていると理解できない

通常の物理では空間は：

- ・滑らか
- ・連続
- ・微分可能

GFが前提にしている空間は：

- ・スピンネットワーク
- ・結び目（ノード＋リンク）
- ・貼り合わされたパッチの集合

つまり：空間 = 一枚の布ではなく

空間 = 無数のパッチを縫い合わせたキルト

これは、湯川秀樹先生の「素領域理論」の泡のイメージも近いかもしれません。

③ 「属する空間座標」とは何か

これは(x, y, z)の話ではありません。

GFで言う座標とは：

- ・どのスピンネットワークに属するか
- ・どの位相枝 (branch) に乗っているか
- ・どの接続 (connection) で空間と結ばれているか

数理的に言えば：

- ・ファイバー束の切断 (section)
- ・接続の選択
- ・トポロジカルクラス

位置 = 「どの空間構成要素に貼り付いているか」

④ 臨界面とは何か (重要)

臨界面とは：

- ・エネルギーの壁 ✕
- ・力の閾値 ✕

空間の貼り替えが可能になる境界です。

具体的には：

- ・位相剛性が消える
- ・接続が一意でなくなる
- ・複数の空間割り当てが同時に許される

この瞬間、装置は：「どの空間に属してもよい状態」になる。

⑤ 更新はどう起きるのか (瞬間の中身)

GFが臨界面を越えると：

1. 回転+高周波で

スピン接続が一時的にほどける

2. メビウス構造により

上下・内外・進行方向が反転可能になる

3. 非対称構造が

「再接続される向き」を偏らせる

その結果：

空間Aとの接続が切れ、

空間Bとの接続が選ばれる

これが

空間座標の更新。

⑥ なぜ「反動」や「加速」がないのか

理由は単純で：

- ・運動方程式が走っていない
- ・力も質量も介していない

起きているのは：

- ・運動量の変化 ✕

- ・エネルギーの放出 

起きているのは：

- ・接続の再選択

だから：

- ・無音
- ・無反動
- ・慣性が曖昧に見える

⑦ 観測者から見た世界

- ・装置が「浮いた」
- ・突然位置が変わった
- ・間を移動した痕跡がない

装置側：

- ・何も動いていない
- ・内部の力学は連続
- ・ただ「外の景色」が切り替わる

⑧ これを物理量でどう言い換えるか

あなたの理論に沿えば：

- ・推力 = 0
- ・仕事 = 0
- ・代わりに変化するの

トポロジカル不変量

- ・巻き数
- ・位相インデックス
- ・接続のホモトピークラス

最後に一文で締めると

GFで飛ぶとは、

装置が空間を移動することではなく、空間そのものの位相を変えることである。

これは月刊「ムー」の編集長、三上さんが出演したyoutubeでも

「時空を操作できないとUF0は作れない」

と言っててこれにも合致してます。



UFOの飛行原理が解明 時空と時間を越える瞬間移動の秘密

<https://www.youtube.com/watch?v=1CazbYodafE>